

## 現行の取組について

令和 2 年 4 月 22 日  
気象庁・環境省

現在、気象条件に応じた熱中症予防に関連した国の情報提供には以下の 2 種類がある。

- 暑さ指数（WBGT）：環境省
- 高温注意情報：気象庁

それぞれ次のようなメリット（○）・デメリット（●）が指摘されている。

- 暑さ指数（WBGT）：
  - 熱中症の救急搬送人員数と相関が高く、ISO で国際的に規格化されている。
  - 各種団体等において、具体的な対策行動が示されている。
  - 国民の間の認知度が低い。
  - 環境省のホームページで掲載しているが、プッシュ型の伝達経路がほとんど活用されていない。
- 高温注意情報：
  - 基準が明確でわかりやすい。
  - 自治体や報道機関への伝達経路が確立されている。
  - 発表基準（最高気温 35 度以上）が必ずしも熱中症の救急搬送人員数と相関していない。
  - 具体的な対策行動とセットではないため、活用しにくい。
  - 発表回数が多く情報の重要性が薄れてしまっている。



それぞれのメリットを活かし、より効果的な情報発信を確立したい。